



Walk with Children めぐる



せいび

211号
2025年4月

ご入学・ご進級おめでとうございます

校報せいびでは学校行事の取り組みや子ども達の様子をお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いします。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。・・・
すべての出来事、すべての行為には、定められた時がある。」

(コヘレトの言葉 3章 1節、17節)

校長 シスター 小島理恵

数日間の暖かな日差しを受けた桜の木は、間もなく花が満開となり、続く雨や風で薄桃色の花びらが次々と舞い降りてくるのを見ながら、1年生の入学式まで持つのか心配するこの頃でした。しかし、ふと空を見上げた時、正門横にある剪定済みの梅の木には小さな実がいくつも顔を出しているのに気づきました。「すべてに定められた時がある」という聖書の言葉が心に浮かびました。数週間前に送り出した6年生との別れの寂しさを感じながらも、次に入学してくる1年生のことを考え、嬉しい気持ちになる、そんな自分の心を映し出しているかのような桜と梅の実でした。

私たちの人生は、「時」の連続です。その中で様々な体験を重ねながら、一日一日を過ごしています。その一つひとつの時間をどう生きるのか、何を基準にして物事を選択するのか、それによって、『人間』が形作られていくのだと思います。サッカー日本代表の元キャプテン長谷部誠選手の著書『心を整える』に、彼の人物を表す話が記されています。韓国戦直前のミーティングに遅刻した森本選手に対して何をどのように語ったのでしょうか。遅刻を何度か繰り返していたこの選手に、キャプテンはミーティングのあと声をかけ、「次からは5分前に来ようぜ。」とごくシンプルに、そしてどこかおちゃらけた雰囲気を残して伝えたそうです。そして、こう書いています。「悪いものは悪い。遅刻した人間はルールを破ったんだから、遠慮する必要なんてない。言うべきことは言うべき。それが僕の考えだ。ただし、こちらが偉そうに注意する権利はないし、上から目線だったら相手にも伝わらないだろう。みんなの前で問いただす必要なんてなく、さりげなく言えばいい。いくらでもチャンスはある。(中略) 森本はさすが素直なところがあって、翌日のミーティングには10分前に来た。だから僕は『やればできるじゃん』と軽いノリで声をかけた。彼がどう感じているかは分からないけれど、僕は彼がきちんと時間前に来てくれたのがすごく嬉しかった。」

私たちの学校の創立者ドン・ボスコも子どもたちに伝えなければならないことがある時、ちょっとした工夫をしていました。伝え方は人それぞれですが、子どもたちにとってそれが受け止めやすい言葉や態度であれば、信頼関係は深まり、子どもたちの心をつかむことができます。子どもが成長できる「時」を私たち大人が見逃すことなく励まし支えていくことができれば素晴らしいと思います。

今年度も保護者の皆様と共に、家族的な雰囲気の中で子どもたちの成長を見守ってまいりたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

